

関西未来

Kansai
Miraizu

医療 産学連携進む

関西には、IPS細胞（人工多能性幹細胞）をはじめ医療分野で世界最先端の研究に取り組む大学が数多くあり、「産のま」として知られる大阪・道徳町には多くの製薬企業が本拠を構える。こうした地を生かしながら、新たな医薬品開発の推進を目指す産学連携の動きが加速している。一方、医薬品開発のためのづくりの技術を活用し、新しい医療機器を生み出す企業も増えている。

新薬・機器開発

最先端 再生医療、がん治療

革新的な医薬品や治療法の開発を目指す製薬企業と大学が二層構造の下で研究する新たな取り組みが、大阪大が2014年に開所したのが「最先端医療イノベーションセンター」。関西圏を中心に、システム連携を使った再生医療



細胞の培養を行うロート製薬の研究者（手前）と、聖川塾・大阪大特任教授（右から3人目）。研究室を共にしながら新たな再生医療の実現を目指す（大阪府枚田市の阪大最先端医療イノベーションセンターで）＝斎藤哲也撮影

阪大×ロート製薬 近大×塩野義製薬…

研究機関と製薬企業が連携する関西の主な事例

<p>大阪大 中外製薬 ロート製薬 小野薬品工業</p>	<p>京大 大日本住友製薬 田辺三菱製薬 塩野義製薬</p>	<p>近大 塩野義製薬 小林製薬 大塚製薬</p>	<p>研究機関 研究内容</p>
<p>発癌が原因の難病に対する治療法の開発 重症心不全などに対する再生医療 血管の再生を促して心筋機能を保護する薬剤の開発</p>	<p>新七メカニズムのがん治療薬の開発 慢性腎臓病の新薬開発 アルツハイマー病のメカニズム解明</p>	<p>がんワクチンの開発 薬効効果を持つ化療剤の開発 女性の「月経前症候群」の原因解明</p>	<p>自己免疫疾患やがんの新薬開発 目の難病の治療薬開発</p>

を重視する大学側で、研究の方向性を巡って、溝が生まれているところがある。センターでは、研究の初期段階から相互の意思疎通を図るため、同じ目標を共有できる。ロート製薬の常務取締役3人のうち、西田啓之（58）は「患者と接する医師の助言は大いに参考にしている」と、

重層する大学側で、研究の方向性を巡って、溝が生まれているところがある。センターでは、研究の初期段階から相互の意思疎通を図るため、同じ目標を共有できる。ロート製薬の常務取締役3人のうち、西田啓之（58）は「患者と接する医師の助言は大いに参考にしている」と、

「研究に取組む。製薬企業と細胞は新たな血管を作る働きを持つ。重い心臓病者の治療に役立つと期待される。18年度の臨床応用が目標だ。大の安田直司教授（60）と連携し、「がんワクチン」の研究を進める。今は、効率的な

宮川智任教授も「製薬企業と組む」とを開発スピードが格段上がる」と期待する。塩野義製薬（同）は、近畿大の安田直司教授（60）と連携し、「がんワクチン」の研究を進める。今は、効率的な

「がんワクチン」の研究を進める。今は、効率的な

下着の金具手術に応用

女性用下着の金具製の技術を生かし、新しい医療機器を開発する中小企業が、大阪府八尾市の「オージェットケイ」だ。同社は1997年の創立以来、ブラジャーなどに用いられる金具の製造をが

ける。その一つが、コルセットの芯材となる、スパイラルレトラクター。乳がん手術で乳房を切除する際、メスで切開した部分に入れ、執刀医の視野を確保する金具だ。軟らかいアルミニウムを材料と用いることで、切開部の大きさに合わせて変形し、そのまま

八尾「オージェットケイ」山崎陽彦社長



スパラルレトラクターを手に、「金属を知りつくしているという強みを生かしたい」と語る山崎社長（大阪府八尾市で）＝大久保忠可撮影

ものづくりの技生かす

<p>消化管の腔内洗浄</p>	<p>腹腔鏡で視野確保</p>	<p>筋肉の異常測定</p>
<p>（上から）エンドシャワー、ラパロコウ、筋トラス筋電計</p>		

斬新器具 次々

このほかにも関西のものづくり企業では独自の技術を生かした医療機器の開発が進む。消化管の腔内洗浄・吸引をする「エンドシャワー」（山科精器）や、腹腔鏡手術で視野を確保する「ラパロコウ」（トクセン工業）、パーキンソン病患者らの筋肉の異常を測定する筋トラス筋電計（メテカール工業）。

大阪商工会議所の担当者は「関西には、優れた製造技術を持つものづくり企業が多く、製品化の支援に力を入れている」と話す。

読売新聞 65